



ファシリティドッグ導入に向けて



ファシリティドッグ導入プロジェクトチーム

こども病院では、ファシリティドッグを職員の一員として迎えるため、令和6年からプロジェクトチーム「犬部」を結成し、導入に向けて準備を進めてきました。導入に要する費用を確保するために本年5月12日からクラウドファンディングを実施し、2,189名の方々から45,418,014円ものご寄附をいただき、第一目標の2,000万円、そしてNEXT GOALである4,200万円も達成することができました。ご支援をいただいた皆さんに心より御礼申し上げます。

クラウドファンディングは終了いたしましたが、診療報酬の対象ではないファシリティドッグを安定的に運用していくには継続的に資金が必要です。このたび、寄附の方法をよりわかりやすくし、便利なクレジットカードによるご寄附も受け付けられるようにしました。詳細はホームページにてご案内しておりますので、ぜひご覧いただければ幸いです。

ファシリティドッグ導入に向けての準備を本格化するため、「犬部」を改組し、7月11日にファシリティドッグ導入プロジェクトチームが発足しました。このプロジェクトチームでは、ファシリティドッグの受け入れの準備を進めています。

現在は、ファシリティドッグの待機場所の選定、各種マニュアルの検討を関係部署と協議を重ねながら進めているところです。待機場所の選定にあたっては、駐車場からの距離、犬が休息できる空間、事務スペース、衛生管理、職員との連絡体制等を考えながら決定していきます。また、各種マニュアルについては、先行病院の事例を参考にしながら、当院にあったマニュアルの策定作業を進めています。

小児医療の最後の砦として、子ども達にとって最善の医療とケアを提供できるように、ファシリティドッグの導入にご支援とご協力をよろしくお願いします。



Concept コンセプト

●**基本理念** 周産期・小児医療の総合施設として、母と子どもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一緒にこどもたちの健やかな成長を目指します。

- 基本方針**
1. 患者の権利を尊重した医療の実践
 2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
 3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
 4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
 5. 親と子どもが一体となった治療の推進
 6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
 7. 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
 8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



編集後記

12月号の編集を終えて。街にきらめくイルミネーションが灯り、子どもたちの笑顔がより一層輝く季節になりました。

今月号の「げんきカエル」では、10月に参加しました神戸医療産業都市一般公開の報告や助産師相談外来について紹介しました。

年末年始は何かと慌ただしく、体調を崩しやすい時期です。どうぞ無理をせず、お体を大切に、温かくして過ごしてください。

新しい年が皆さまにとって健やかで楽しい一年になりますように。(看護部)

委員長：貝藤裕史
副委員長：濱田由佳
委員：猪股高爾 山田健太
吉井拓真 菊池真由美
松本智美 松下伊都子
上西美奈子 辻田利香
中村直子 鷹尾伏彩
前田貴彦 迫田萌
井上徹 林勇斗
三木貴久子 宮戸健一

本誌に関するご感想・ご希望・
ご質問はこちらまで



兵庫県立こども病院
HYOGO PREFECTURAL
KOBE CHILDREN'S HOSPITAL

Tel. 078-945-7300
FAX. 078-302-1023
<https://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>
e-mail: info_kch@hp.pref.hyogo.jp

[07 病 P2-017A4]

げんき

No.89



カエル

兵庫県立こども病院
ニュースレター



令和7年(2025) 12月1日

神戸医療産業都市一般公開2025 イベントを開催

10月4日（土）に、毎年1回、神戸医療産業都市（ポートアイランド）内にある研究機関や大学、病院、企業が一齊にイベント（実験体験、見学ツアー、展示、セミナー等）を開催する、「神戸医療産業都市一般公開」にはじめて参加しました。

当日は、当院の総合受付ホールを会場に転換し、雨模様の天候の中、約150名の来場者をお迎えしました。

イベントでは、「バイキンのひみつをさぐれ！こども健康ラボ」、「ゲノムってなに？～遺伝子と病気のお話」、「家の中のワナ!?子どもは誤って食べちゃうモノ展」といった、身近なことや少し専門的なお話を医師、看護師、臨床検査技師、遺伝カウンセラーがそれぞれ披露しました。

会場では、一緒に手洗いの練習をしたり、DNAや病気の詳しいお話をしたり、食べたら危険なモノ

♦ を実際に見たりなど、来場いただいた皆さんと一緒にになって楽しみました。当日のオプショナルツアーとして、ドクターカーを披露し、運転席に乗って記念写真を撮られているご家族もいらっしゃいました。

♦ 当院では、はじめてのイベントでしたので、来場者がどれくらいになるのか、ほとんど来ないので?と不安を抱えながらの開催でしたが、多くの方にご来場いただき、ほっと胸を撫でおろしました。ご来場いただいた皆さん、本当にありがとうございます。

♦ 今後も皆さんの役に立つ情報の発信やイベントなど、「兵庫県立こども病院」を少しでも身近に感じていただける取組を進めていきますので、温かく見守っていただけたら幸いです。





出産してから現在も、親子共にこども病院でお世話になっています。息子は、心臓と血液に2つの難病を抱えています。

妊娠中期の検診で、お腹の赤ちゃんに心臓病が見つかったことがはじまりでした。症例が少なかったため、地元の総合病院では受け入れが難しく、こども病院に転院することになりました。出産前はリスク面の説明が多く、不安も大きかったです。無事に出産を終え、ほっとしたのも束の間、心臓の術前検査で重症の血液疾患が見つかりました。血が止まりにくい血液疾患を抱えながら行う手術は大変難しかったと伺いました。県外の大きな病院とも連携をとっていただき、たくさんの協力のもと9時間におよぶ手術は無事成功。その後、継続して治療が必要な症状が新たに見つかったため、現在も病院に定期的に通いながら自宅でも週2回、注射で薬の投与を続けています。

治療を頑張っている息子は、病気を思われないほど元気いっぱいです。当たり前の日常を過ごせることが本当に幸せなことだと感じます。妊娠中に心臓病を見つけていただいたおかげで万全の体制で出産に臨むことができたこと、世界でも数例しか症例のない難しい組み合わせの病気を抱える息子のために、こども病院の先生方がお力を尽くして各医療機関と素晴らしい連携をしてくださいり、あらゆるリスクを想定しながら手術を成功させてくださったこと。こうしたすべての出来事が現在の息子の元気な姿に繋がっていると思うと、家族親戚を含め、治療に関わってくださる全ての方々に感謝してもしきれません。

息子は生まれて3か月で初めて病院を退院し、その後は定期的な通院に加え、突発的だけがや出血、自宅での注射がうまくいかない時など頻回に通院する生活となりました。病院に来るといつも、先生や看護師さん、スタッフの方々などみなさんが温かく迎えてくださるため、息子は病院に通うことが楽しみのひとつになっていきました。通院時、はじめは夫や祖父母にも一緒に付き添ってもらっていました。初めて出会う病気で知識もないため、不安なことは小さいことでもたくさん相談していましたが、全て受け止めていただき、不安がなくなるまで説明していただきました。通院を重ねるうちに徐々に不安な気持ちがなくなっていました。私自身も前を向いて頑張ろうと思えるようになりました。出産後の大変な時期を、家族親戚みんなで協力して乗り越えることができたため、今でも夫や祖父母は息子や病気について一番の理解者であり、共に悩み支えてくれる存在となりました。こども病院は、

患者の母

病気の治療だけではなく、家族みんなを支えてくださる場所であると感じています。息子が注射を嫌がって泣いたとき、自宅での注射がうまくいかず私が弱気になってしまったときなど、どんな時でも丸ごと受け止め、一緒に考え方を下さる場所があることはとても心強く励みになりました。私自身、子どもを産むまでは人に頼ることが苦手でしたが、今ではすっかり病院の方々を信頼し、心を打ち明けられるようになりました。たくさんのお力を借りながら、息子とともに、親として私も成長していくかなと思います。

治療は簡単なことではないですが、元気に過ごすために必要なものであり、日常の一部となっています。全国各地で行われるリモートの講演会に積極的に参加し、前向きな言葉をたくさん吸収したり、同じ病気を抱える子のご家族とお話しする機会をたくさんありました。胸の手術跡も、頑張った勲章だねといつも話しており、本人も誇らしげにしています。これから先もきっと、悩んだり辛くなったり色々なことがあると思いますが、息子自身が病気も自分自身の一部であると受け止めてうまく付き合っていくようになります。

私も、息子が病気になったことを悔やむのではなく、家族みんなでサポートしながら、本人が病気と共に歩める道の中によりよいものを一緒に探していきたいです。そして、大きくなった時には、積み重ねてきたたくさんの苦労や努力を活かし、その経験を少しでも社会に役立てられたなら、それが支えて下さる全ての方々への恩返しになると考えています。

改めまして、息子のいのちを守ってくださっているこども病院の諸先生方をはじめ、関わってくださる全ての皆さんに心より感謝申し上げます。



ご存じですか？こども病院の「母乳外来」「助産師相談外来」

産科・MFICU病棟

産科では、妊娠中から産後までのケアのための外来が2つありますので、ご紹介します。

母乳外来

こども病院の「母乳外来」には入院中の赤ちゃんに届けるために搾乳をしているお母さんが沢山来られます。一日に何度も搾乳をするのはなかなか大変なことです。そこで、母乳外来ではそんなお母さんたちとお話ししながら、おっぱいマッサージや、搾乳のサポートを行っています。

乳腺炎が心配されるときは産科医師の診察を受けることもできます。



助産師相談外来



妊娠中はもちろん、産後のお母さんも対象としています。元気すぎて困ってしまう赤ちゃんのこと、治療で頑張っている赤ちゃんのこと、残念ながらお空に帰っていった赤ちゃんのことなど、色々な思いを私たちと話してみませんか？



気軽に産科外来をお訪ね下さい
スタッフ一同で待っています

